

自然システム学専攻	研究分野	地質学・古生物学	Lab. ID NS21
研究室Webサイト	長谷川研究室: https://paleo.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.html ジェンキンス研究室: http://www.geobiology.jp/ 佐川研究室: https://geocivil.w3.kanazawa-u.ac.jp/target/ep/marine_		
研究課題の概要			
<p>地質学・古生物学グループは過去の地球表層環境(地表, 海洋)を地質学・古生物学・地球化学的解析により理解することで, 現在そして将来の地球環境の変化を評価したり, 生物や生態系の進化を理解することを目指しています。3名の教員それぞれが研究室を運営し, それぞれの専門に応じて研究課題を設定しています。長谷川卓教授は白亜紀, 古第三紀など過去の「温室地球期」の解読を進めています。ジェンキンスロバート准教授は主に深海の極限環境に成立する生態系の進化を研究しています。佐川拓也助教は深海掘削試料を用いて日本海や北西太平洋の環境変遷を解読しています。どの研究室も, 海外でのサンプリングや国際学会への参加の機会が多いです。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>前期課程学生の多くは卒業研究で培った知識を活かして, 卒業研究課題を継続してより深い議論を目指します。論理的考察力・プレゼンテーション能力を付けることを重視した指導を行っています。「研究室ゼミ」と「地質グループゼミ」が週1回ずつ行われ, 前者では化石や生物, 地質試料を用いた正確な観察と分析に基づいた科学的洞察力を高め, 後者では専門分野がやや異なる聴衆にも研究内容が理解できるプレゼン能力を磨きます。後期課程学生は, 英語での専門的議論を行う能力を身につけます。国際学会での発表や海外でのサンプリングなどのアレンジも自らい行い, 「独立した地球科学者として活動できる」能力を養成します。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>地質・古生物学グループの学生は, 学生居室に一人一人が机を持っています。同室にいる上級生やポスドクからアドバイスをもらいながら和気あいあいの雰囲気です。特に安定同位体比や有機分子分析を行う学生は, 機器管理を担当するポスドクと分析方法についてしっかりと議論を詰めたうえで分析を行います。フィールドワークが多い分野ですが, これについても先輩たちからのアドバイスは非常に有用です。ゼミでは外部の研究者が参加してくれることも多く, 学会さながらの議論が展開されます。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>何気ない「直感的ひらめき」の中に地球を紐解く大事なヒントが隠れています。その「ひらめき」が本物なのかどうか, 最新の知識と装置を使って確かめましょう! 楽しさの中から見つかるものが, 君たちの宝石なのであり, それを手にする君たちは, どの大学を出るよりも輝ける専門家となって羽ばたいていけるでしょう。楽しいと思って研究することが, 自分の腕を磨き, 技術を身につけることにつながります。それが将来, 就職に有利となり, 社会に出て身を助け, やがて社会に役に立つことになります。我々が使う手法は, 石油探査会社や環境コンサルタントで役立つ手法ですが, 就職のためという意識ではなく, 興味に従って自分自身の知識・技術を高めるといった意識を持ってもらいたいです。私たちは楽しく研究をしたいし, 学生諸君にも楽しく知識をつけ, 楽しく研究をして欲しい。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2021.3	Xestoleberis setouchiensis グループ貝形虫の精子学: 精子形態と系統の関係 及びメス貯精嚢内の精子変形		
2021.3	北海道小平町から産する白亜紀メタン湧水性化石群集		
2021.3	熱水性二枚貝Gigantidas platifrons殻体に見られる成長障害輪の形成要因		
2021.3	北海道小平町の上白亜系産竜骨群集		
2021.3	浮遊性有孔虫の個別分析からみる西赤道太平洋の水温躍層変動		
2021.3	テチス海南縁部から得られた白亜紀バイオマーカーの層位分布とその意義		
2021.3	化石試料に対する「アミノ酸を用いた栄養段階推定法」の適用可能性の探求		
2020.3	本州中部日本海沿岸における海生間隙性貝形虫の群集構成と生物地理		
2020.3	日本から産する貝形虫Neonesidea属の系統と進化		
2020.3	若狭湾沖深度トランセクト堆積物の有機炭素濃度変動に基づく日本海の古環境復元		
2020.3	熱水組成がRimicaris kairei の鰓室内共生細菌叢および沈殿鉱物に及ぼす影響		
2020.3	カナダ太平洋岸の古環境復元: 上部白亜系ナナイモ層群のバイオマーカー分析に基づく考察		
2020.3	北海道中川町に分布する後期白亜紀メタン湧水群における群集組成変異		
2019.3	手取層群有峰層(上部ジュラ系)中の骨化石密集層から産出した無脊椎動物化石群集: 竜骨群集の可能性		
2019.3	能登半島九十九湾に設置した鯨骨に生息するノリコイソメ科多毛類の分類と食性		
2019.3	深海底堆積物中の炭酸塩付随硫酸が保持する硫黄同位体比の続成環境下における挙動		
2019.3	Bairdia上科貝形虫の精子形態と生殖様式		

2019.3	始新世の海洋堆積物に記録された硫黄同位体比経年変動に関する古海洋学的意義
2018.3	カナダ太平洋岸の上部白亜系ナナイモ層群の国際対比と古水温解読
2018.3	化石殻体内アミノ酸の保存性評価: 個別アミノ酸の安定窒素同位体比に基づく古生態系復元に向けて
2018.3	北海道浦幌町に分布する暁新統から産する沈木依存化石群集 - 植物食モミジソデガイ科腹足類が種多様性に与える影響に着目して-
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目	
修了年月	タイトル
2021.9	Marine invertebrate fossil communities dependent on wood-debris and whale-falls from Japan. (本邦から産出した沈木および鯨骨に依存する海洋無脊椎動物化石群集)
2017.3	Shallow Marine Ostracod Fauna of the Fiji Archipelago (フィジー諸島の浅海貝形虫群集)
2014.9	Indonesian intertidal ostracodes: Their adaptation to microhabitats and the description of new species (インドネシアの潮間帯貝形虫: 生息場への適応と新種の記載)
研究室連絡先メールアドレス	神谷隆宏<tkamiya*at*staff.kanazawa-u.ac.jp> 長谷川卓<jh7ujr*at*staff.kanazawa-u.ac.jp> ジェンキンズロバート(R. G. Jenkins) <robertgi*at*staff.kanazawa-u.ac.jp> 佐川拓也<tsagawa*at*staff.kanazawa-u.ac.jp>